モジュラー式車いす

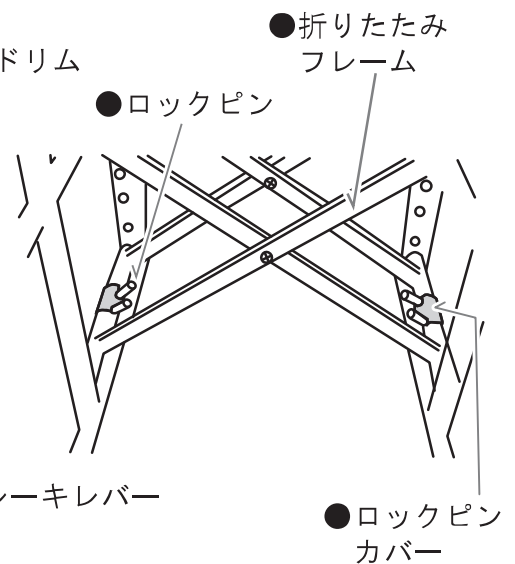
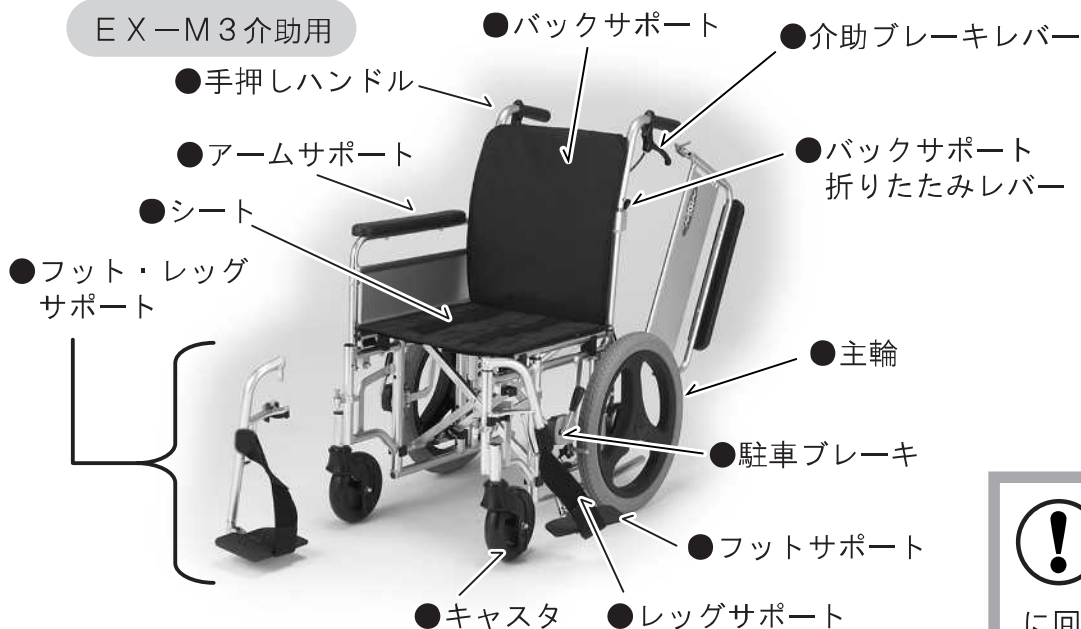
TRZ-008-02

EX-M3 自走用
EX-M3 介助用

この度は、製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。ご使用前に必ずお読みください。
なお、保証書も掲載致しておりますので、大切に保管してください。

取扱説明書

目次はP22に掲載しております。

各部の名称

出荷時は運送時の安全の関係でフットサポートが外側に回転して収納されている場合があります。フットサポートの戻し方につきましては、Ｐ6をご覧ください。

ご確認ください

ＥＸ－Ｍ３自走用

ＥＸ－Ｍ３自走用は乗車者自身でハンドリムを駆動して操作する車いすです。この車いすは、特別な身体保持具、バックサポート（背）の角度調整・座位の姿勢変換（昇降・旋回など）等の機構がない、標準型の自走用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこの標準型が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準型が使用に適さなくなることがあります。

ＥＸ－Ｍ３介助用

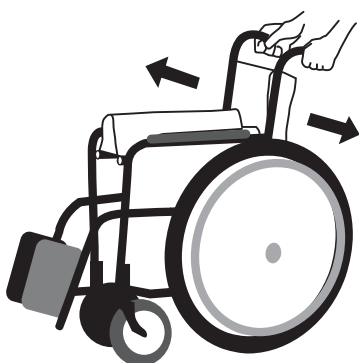
ＥＸ－Ｍ３介助用は介助者が操作する車いすです。この車いすは、バックサポート（背）の角度調整・座位の姿勢変換（昇降・旋回など）等の機構がない、標準型の介助用車いすです。なお、購入時はこの標準型が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準型が使用に適さなくなることがあります。

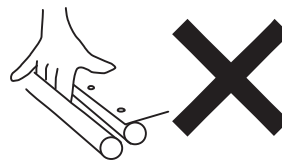
仕様・サイズ

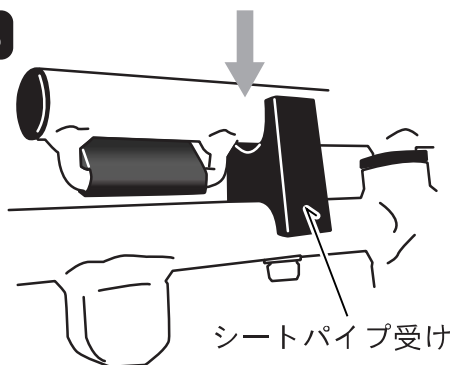
機種／項目	ＥＸ－Ｍ３自走用	ＥＸ－Ｍ３介助用
全長	１００（１００）cm	１００（９１）cm
全高	８５（６５）cm	
全幅	５７（３５）cm	５３（３４）cm
前座高／後座高	調節式　４２/４０・４４/４２・４６/４４ cm	
シート幅（アームパイプ内々寸）	工具不要調整式　３８・４０・４２・４４ cm	
シート奥行	工具不要ベルト着脱調整式　３５・４０ cm	
アームサポート高	調節式　２２・２４・２６ cm	
手押しハンドル高	８１cm（前座高/後座高　４２/４０cm時）	
バックサポート高	４０cm	
バックサポート角度	９６°（バックサポート折りたたみ金具上部＋１０°）	
ティッピングレバー長	１３．５cm（補強溶接箇所含む）	
最小ティッピング・床間距離	約５．３cm（前座高/後座高　４２/４０cm時）	
キャスタ	６インチクッションキャスタ輪＋高さ調節式キャスタフォーク	
駆動輪・主輪	２２インチアルミリム車輪	１６インチプラホイール
フットサポート	フットサポートプレート前後位置・角度調節式	
バックサポート・（座）シート	マジックベルトによる張り調整式	
重量	１５．８kg	１５．０kg
耐荷重	１００kg（積載分含む）	
使用時適正タイヤ空気圧	６５ＰＳＩ（４５０kpa／4.5BAR）	
静的安定性試験方法	ＪＩＳ　Ｔ９２０１　２００６　１０．１．２ a）	
駆動輪取付けナット	インチねじ（ＵＮＦ１／２－２０山）を使用	

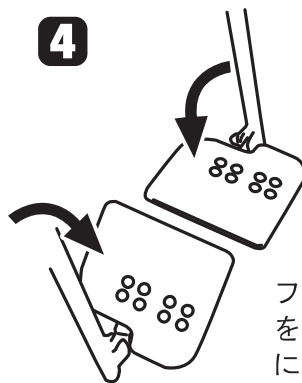
※全長・全高・全幅は、前座高/後座高とシート幅をもっともコンパクトになるように設定した場合の寸法です。[（　）は折りたたみ時]

車いすの拡げかた

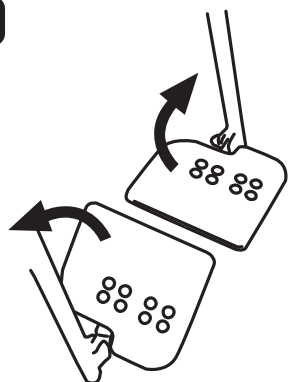
1 手押しハンドルを持って軽く左右に拡げてください。

2 片方の手押しハンドルを持ち上げるように反対側の座面下のパイプ部を下の方へ押し下げます。

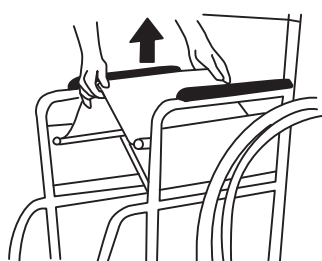
注意
警告

押し下げる際、座面パイプの下側や横側に手や指を入れないでください。危険です。

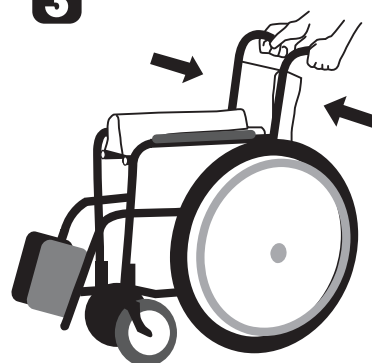
3

座面下のパイプが、左右とも、シートパイプ受けにしっかりと収まっているか確認してください。
※背・座シートのベルトをきつく張りすぎていると正しく収まりません。その場合は、ベルトの調整をしなおしてください。
（P10・P11参照）

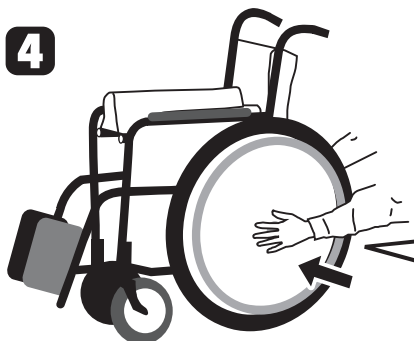
4

フットサポートプレートを下方へ回転させるようにセットします。乗車者が車いすに座ってから行うのが一般的です。

車いすの折りたたみかた

1

フットサポートプレートを上方へ回転させて収納します。

2

座面シートの、前後中央部を持ち上げます。

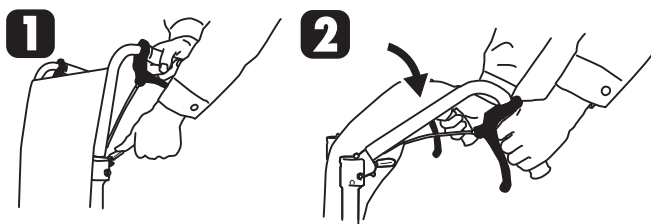
3

手押しハンドルを持って、左右から押し縮めるように折りたたんでください。

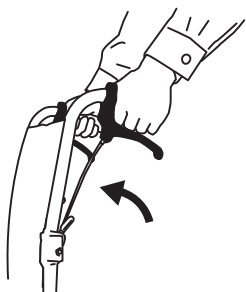
4

たたみにくい場合は、両サイドから駆動輪（主輪）の車軸部分を内側に押してください。

注意

スポークやフレームの間で手や指を挟まないように注意してください。

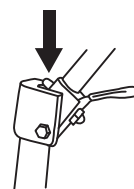
バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた

折りたたみかた

手押しハンドルを握り、一方の手でバックサポート折りたたみレバーを下に押しながら、手押しハンドルを手前に引くように少し折り曲げます。反対側も同様の手順で少し折り曲げてください。続いて、左右同時に折りたたみます。

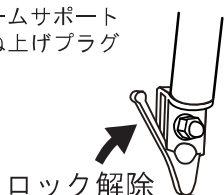
固定のしかた

手押しハンドルを握り、上方へ引き起こすように持ち上げてください。左右のスライドピンが「カチッ」とロックされたことを必ず確認してください。

警告

車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。

注意

- ●矢印の部分に手や指を置かないでください。
- ●矢印の部分にバックサポートシートをはさみこまないように注意してください。

アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた

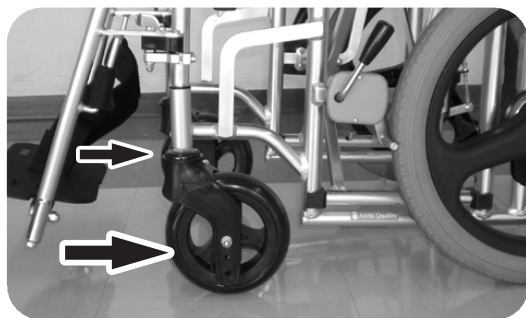
跳ね上げのしかた

アームサポート先端のアームサポート跳ね上げプラグのレバーを後方に倒すと、アームサポートの固定（ロック）を解除することができます。ロックを解除して、アームサポートを上に回転させるように上げてください。

戻しかた

戻すときは、アームサポート跳ね上げプラグを握らずに、そのまま「カチッ」というまでアームサポートを押し下げてください。

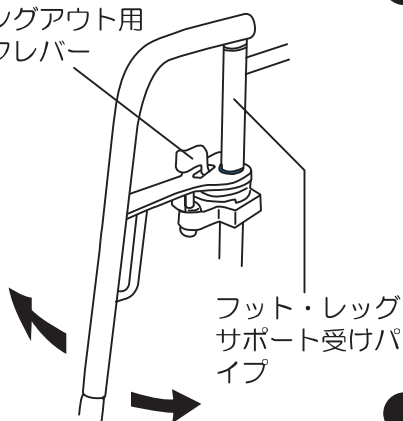
注意 警告

- ・アームサポートの跳ね上げは必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ・アームサポートを跳ね上げた状態で車いすを動かさないでください。
- ・跳ね上げて移乗する際は必ず、アームサポート跳ね上げプラグがバックサポートパイプの前に出ない位置まで跳ね上げてください。
- ・戻すときには、アームサポートと座面の間やジョイント部に、身体や衣服が挟まらないように注意してください。

フット・レッグサポートの開き方・着脱のしかた

　フット・レッグサポートの開閉と着脱の作業は、キャスタを後方（車いすが前進する際のキャスタの向き）に向けてから行ってください。
　キャスタが前方や横側を向いていると、フットサポートとキャスタ輪が当たり、うまく作業ができません。

スイングアウト用ロックレバー

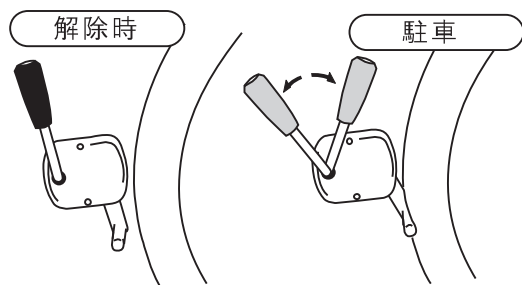
フット・レッグサポート受けパイプ

開きかた・はずしかた

※乗車者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

①スイングアウト用ロックレバーを外側へ押しながら、フット・レッグサポートを外側に開きます。
②フット・レッグサポートを外側へ４５°度程回転させると、フット・レッグサポートを上方に引き抜いて外すことができます。

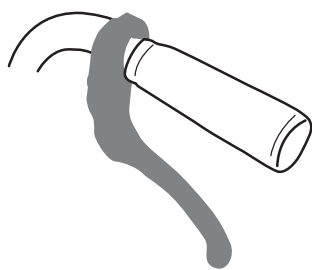
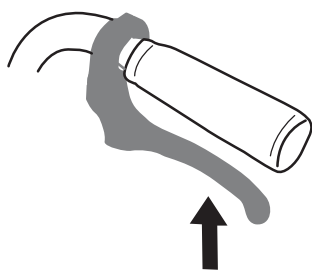
取付けかた

①フット・レッグサポートを外側に４５°程度開いた状態の角度で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。
②フット・レッグサポートを「カチッ」と音がするまで、内側に向けて回転させてください。

駐車ブレーキのかけかた

●レバー先端のノブを手で前方に押す、もしくは後方に引くと駐車ブレーキがかかります。中間の位置が解除です。

注意警告

・しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
・坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は２輪以上に車止めをしてください。
・ブレーキレバーに体重をあずけたり、足でレバー操作するなど、レバーに強い力がかかる行為はしないでください。

介助ブレーキのかけかた

左右の介助ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。

禁止

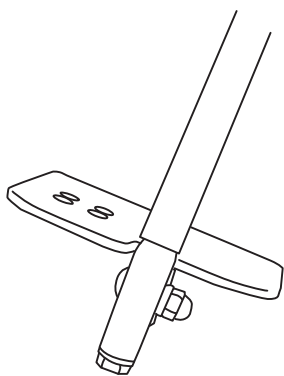
介助ブレーキは、駐車ブレーキとして使用することはできません。駐車目的では使用しないでください。

駆動輪の操作のしかた <ＥＸ－Ｍ３ 自走用のみ>

・乗車者がハンドリムを握り、ハンドリムを前に押したり、後ろへ引いたりすることで、前進又は後退します。
・走行中にブレーキをかけるには、ハンドリムを握って駆動輪を止めます。

注意

タイヤを握って漕ぐと、ブレーキやフレーム、アームサポート等の間で指を挟むことがありますので注意してください。

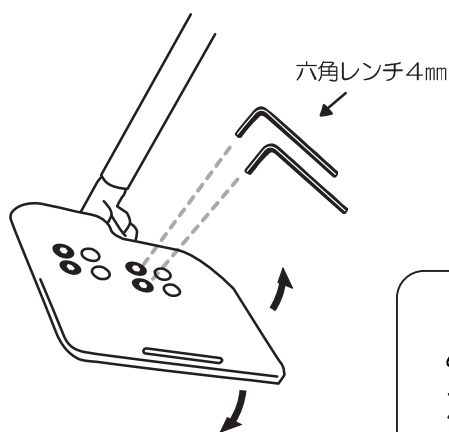
フットサポートの高さの調節のしかた

●フットサポート下端の調節用ボルトを13㎜のスパナで緩めて、高さを合わせてから、調節用ボルトをしっかり締め付けます。
（上下にスライドしにくい場合は、プラスチック製ハンマーなどで、調節用ボルトを下からたたくようにショックをあたえると緩みます。）

注意

・調節後はしっかりと調節用ボルトを締めて固定してからご使用ください。
・フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部で、地面から５㎝程度あったほうが良いでしょう。
・フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。

出荷時はフットサポートを、外側後方に回転して収納してある場合があります。調節用ボルトを緩めて、前方に回転させ、高さを調節してから、調節用ボルトをしっかり閉めて固定してください。

出荷時

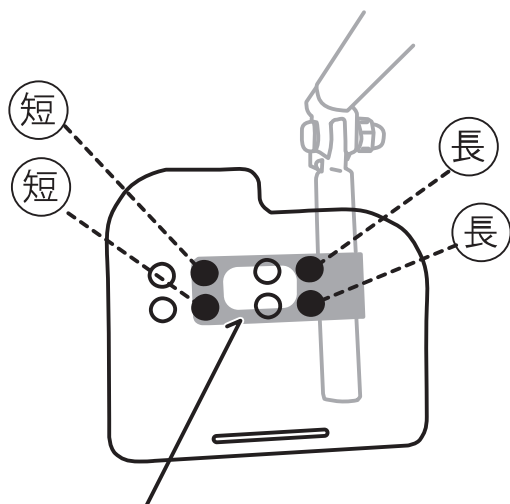
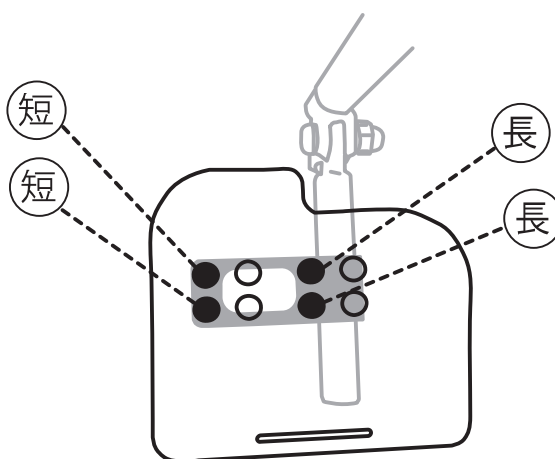
フットサポートプレートの角度の調節のしかた

●フットサポートプレート上の、車いす後方側のボルトを4㎜の６角レンチで緩めると、フットサポートプレートの角度を調節することができます。
角度を合わせてから、緩めたボルトをしっかりとしめて、プレートの角度を固定します。
（極端に強く締めすぎると、締付けクランプ部品が破損する場合がありますのでご注意ください。）

注意　調節後はしっかりとボルトを締めて固定してからご使用ください。（極端に強く締めすぎると、締付けクランプが破損する場合がありますのでご注意下さい。）

フットサポートプレートの角度の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

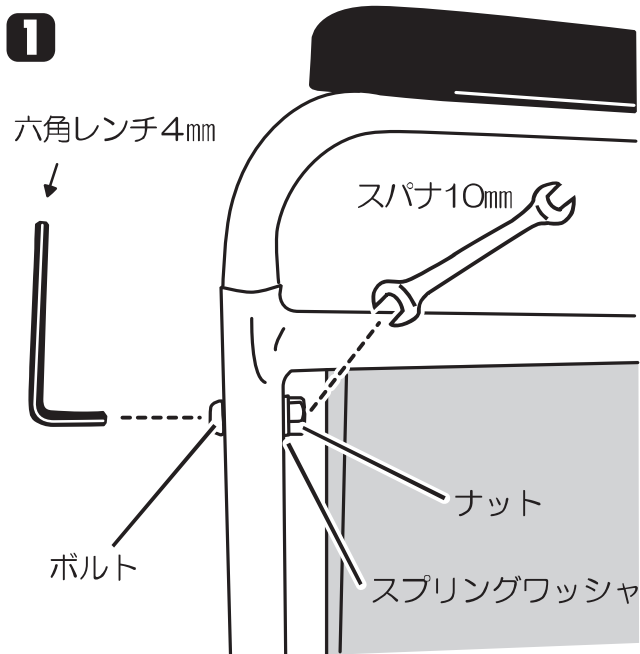
フットサポートプレートの前後位置の調節のしかた

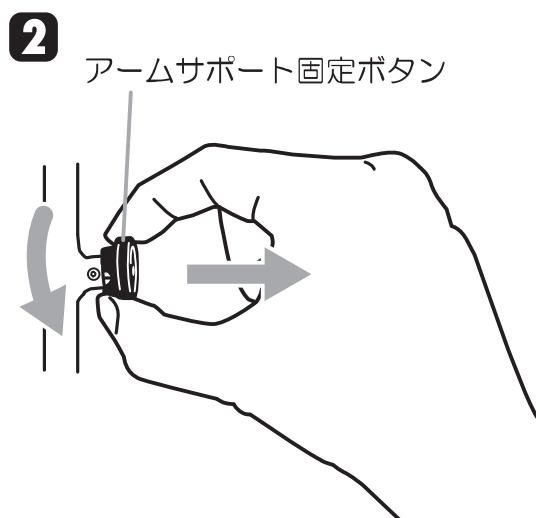
フットサポートプレートをフットサポート固定用クランプに固定しているボルトを４㎜の六角レンチで緩めてはずし、ボルト位置を変更することで、フットサポートプレートの前後位置を２段階調節できます。

フットサポートプレートの固定には、長短２種類のボルトが使用されています。

注意　調節後はしっかりとボルトを締めて固定してからご使用ください。（極端に強く締めすぎると、クランプが破損する場合がありますのでご注意下さい。）

フットサポートプレートの前後位置の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

アームサポート高の調節のしかた

1

アームパイプを固定している、アームサポート前方のボルトをはずします。

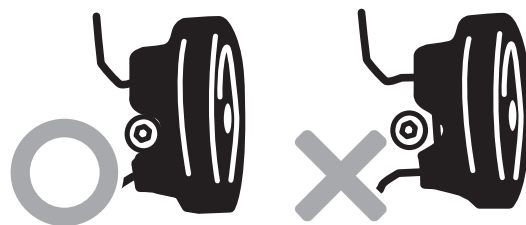
2

アームサポート固定ボタン

アームサポート後方のアームサポート固定ボタン（黒いボタン）を引っ張って回し、ロックをはずします。

3 アームサポートの高さを任意の位置にずらして、アームサポート固定ボタンを回してロックさせてください。

4 アームサポート前方のボルト・スプリングワッシャ・ナットをしっかり固定して完了です。

注意

アームサポート後方のアームサポート固定ボタンがしっかりかかっていることを確認してください。使用中にロックがはずれ、ケガをするおそれがあります。

アームサポート高の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

（座）シート奥行の調節のしかた

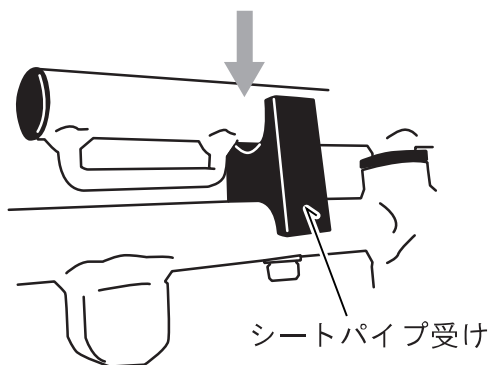
座面の一番前側のインナーベルトは着脱式です。ベルト装着時はシート奥行40cm・ベルト未装着時はシート奥行35cmとなります。
ベルトの着脱により、シート奥行を調整できます。

ベルトの着脱後、座シートを取付けて完了です。
※座シートは、インナーベルトにしっかりとマジックで貼り合わせて固定してください。

注意

●座の一番前側のインナーベルトは他のベルトと止め方が違います。必ず右図のような止め方をしてください。

●シート奥行きの調整は、人が乗車していない状態で作業してください。落下してケガをするおそれがあります。
●インナーベルトをつけた際は、ベルトが正しく取付けられて、マジックでしっかり貼り合わされていることを確認してください。

●座面下のパイプが、左右とも、シートパイプ受けにしっかりと収まっているか確認してください。収まっていない状態での使用は故障や破損の原因となります。
※ベルトをきつく張りすぎていると正しく収まりません。その場合は、ベルトの調整をしなおしてください。

（座）シートの張り具合の調整のしかた

1

（座）シートをはずしてください。

2

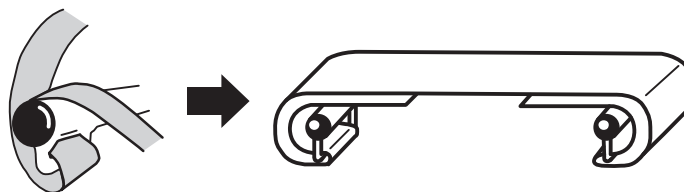
任意にてマジックベルトの緩み具合を調整し、しっかりマジックを固定してください。

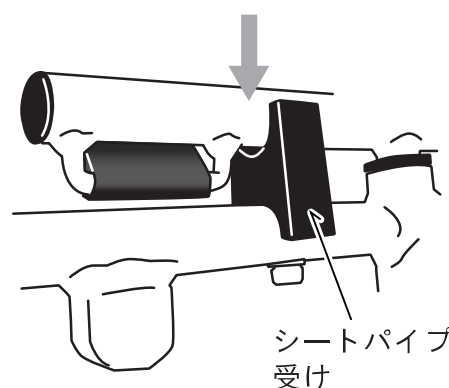
3

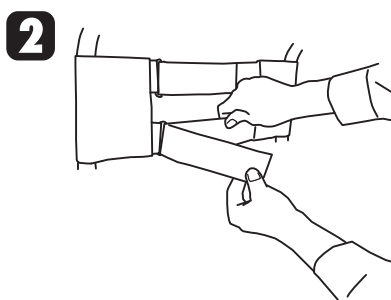
座シートを取付けて完了です。
※座シートは、インナーベルトにしっかりとマジックで貼り合わせて固定してください。

注意

●人が乗車していない状態で作業してください。落下してケガをするおそれがあります。
●緩めすぎると、折りたたみフレーム部と臀部があたるおそれがあります。

●座の一番前側のインナーベルトは他のベルトと止め方が違います。必ず右図のような止め方をしてください。

●インナーベルトが正しく取付けられて、マジックでしっかり貼り合わされていることを確認してください。

●座面下のパイプが、左右とも、シートパイプ受けにしっかりと収まっているか確認してください。収まっていない状態での使用は故障や破損の原因となります。
※ベルトをきつく張りすぎていると正しく収まりません。その場合は、ベルトの調整をしなおしてください。

バックサポートの張り具合の調整のしかた

1
バックサポートシート
をはずしてください。

2
任意にてマジックベルトを
緩み具合を調整し、しっか
りマジックを固定してくだ
さい。

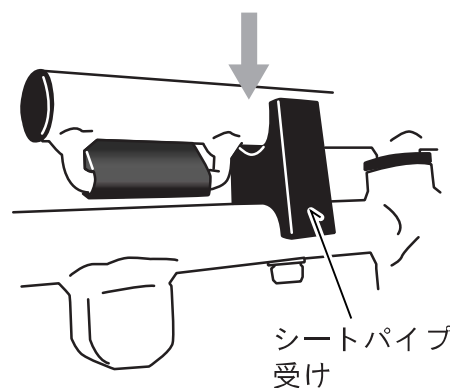
3 バックサポートシートを取付
けて完了です。

注意

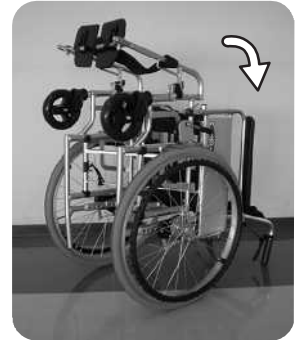
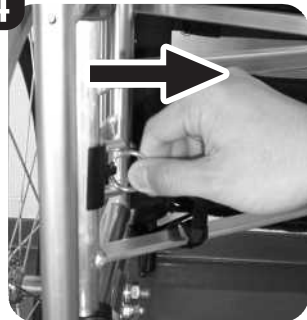
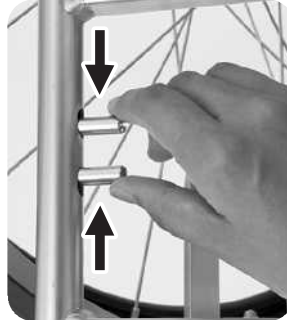
●人が乗車した状態で調整する場合は、必ずベルトを一本ずつはずして
調整してください。一度に全てのベルトをはずすと、落下してケガを
するおそれがあります。

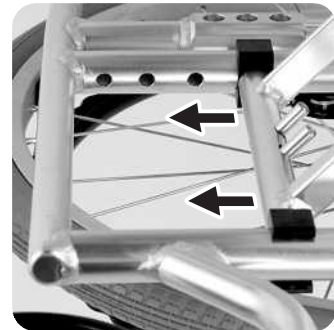
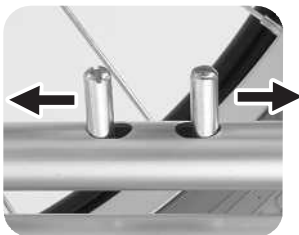
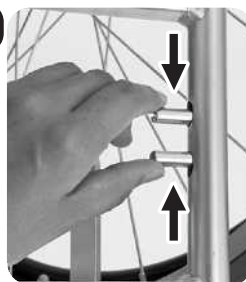
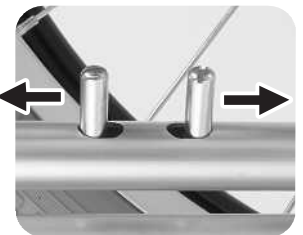
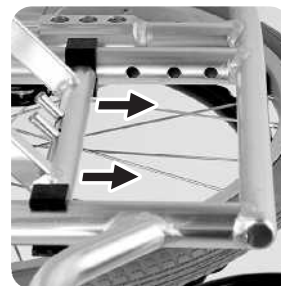
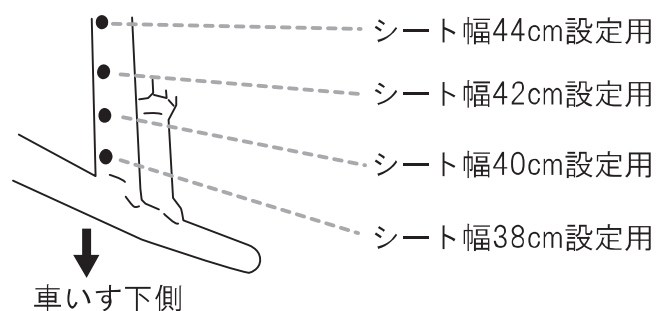
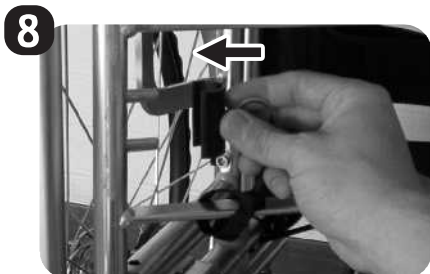
●ベルトをたるませる限度は５㎝程度です。それ以上たるませると、マ
ジックの効きが弱くなり、ベルトがはずれる可能性があります。

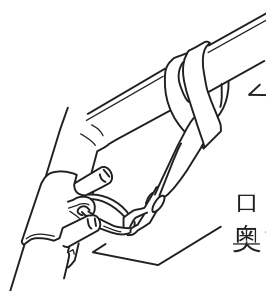
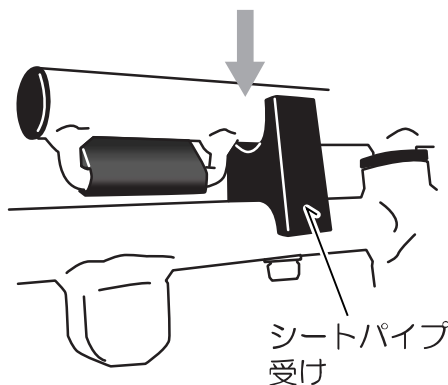
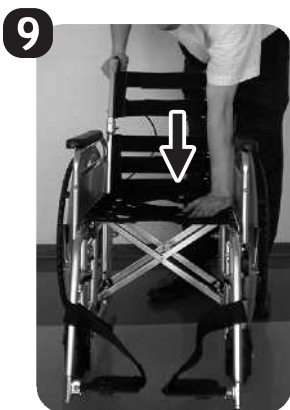
●インナーベルトが正しく取付けられて、マジックでしっかり貼り合わ
されていることを確認してください。

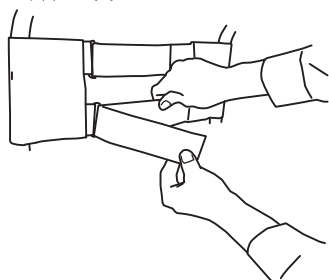
●座面下のパイプが、左右とも、シートパ
イプ受けにしっかりと収まっているか確
認してください。収まっていない状態で
の使用は故障や破損の原因となります。
※ベルトをきつく張りすぎていると正し
く収まりません。その場合は、ベルト
の調整をしなおしてください。

シート幅の調整のしかた

❶
座とバックサポートのシートを車いすからはずします。

❷
座・背のすべてのベルトのマジックをはずします。

❸
手押ハンドルを地面につけるように車いすを立てます。

❹
折りたたみフレーム下部のロックピンカバーを引っぱってはずします。

❺
ロックピンを握り、ロックを解除して、希望するシート幅にあった穴位置（下図Ａ参照）まで、折りたたみフレーム下部パイプをスライドさせます。

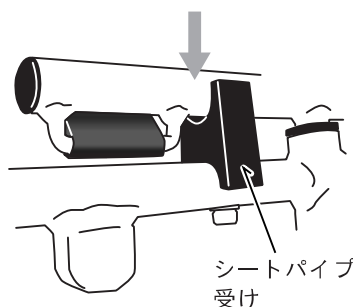
❻

ロックピンによるロックが前後両方ともしっかりとかかっていることを必ず確認してください。

❼
反対側の折りたたみフレーム下部パイプも、５・６と同じ手順でスライドさせてください。

⚠ 必ず、左右同じ高さの穴位置に設定してください。

ロックピンカバーをしっかりと押し込んでください。左右２つとも確実に装着してください。

 確認してください！

車いすを起こし、座面下のパイプを左右とも、シートパイプ受けにしっかりと収めます。

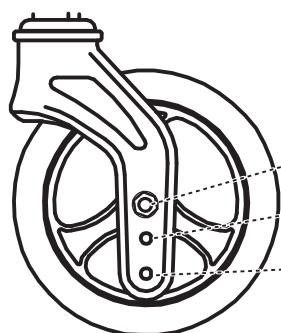
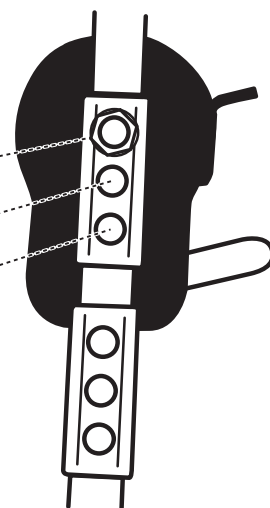
⑩ 背・座の全てのインナーベルトマジックをしっかりと貼り合わせてください。

 座の一番前側のインナーベルトは他のベルトと止め方が違います。必ず下図のような止め方をしてください。

バックサポートシート・（座）シートを取付けて完了です。

注意

●人が乗車していない状態で作業してください。落下してケガをするおそれがあります。
●インナーベルトが正しく取付けられて、マジックでしっかり貼り合わされていることを確認してください。
●座面下のパイプが、左右とも、シートパイプ受けにしっかりと収まっているか確認してください。収まっていない状態での使用は故障や破損の原因となります。
※ベルトをきつく張りすぎていると正しく収まりません。その場合は、ベルトの調整をしなおしてください。

座面高の調節について

キャスタ車輪を止めている車軸ボルトの穴位置と駆動輪（主輪）を止めている車軸ボルトを取付けている穴の位置を変更することで座面の高さを変更することができます。

ＥＸ－Ｍ３自走用の場合

駆動輪

①前座高42㎝/後座高40㎝

②前座高44㎝/後座高42㎝

③前座高46㎝/後座高44㎝

キャスタ

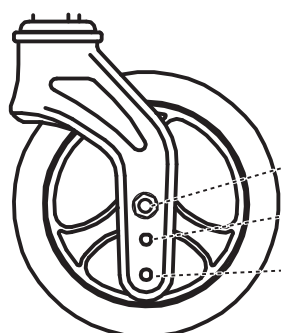
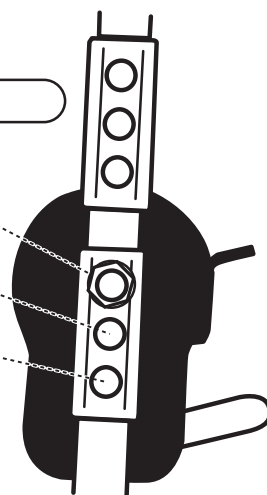
ＥＸ－Ｍ３介助用の場合

主輪

①前座高42㎝/後座高40㎝

②前座高44㎝/後座高42㎝

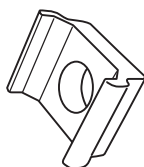
③前座高46㎝/後座高44㎝

キャスタ

キャスタ車輪の車軸と駆動輪の車軸は①・②・③のうちの同じ番号の位置に設定してください。
※座面高を変更する場合は、駐車ブレーキの調節も必要となります。（P15参照）

禁止

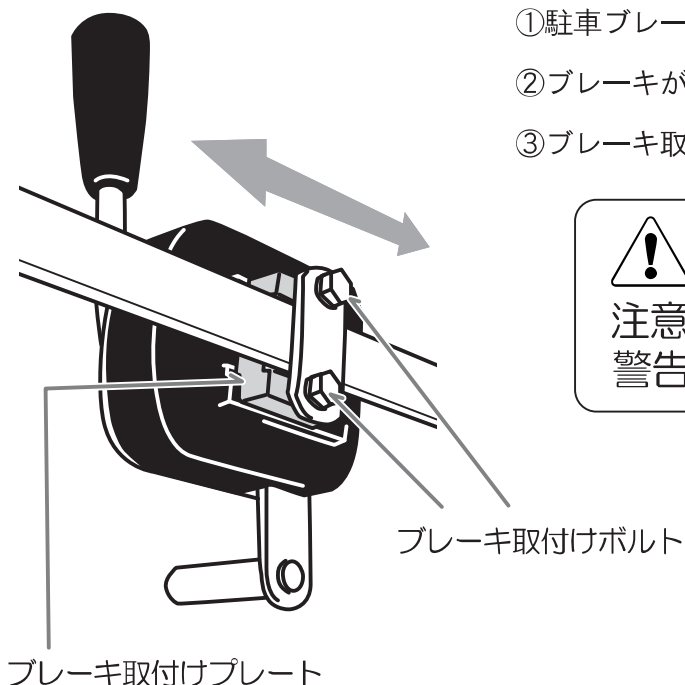
キャスタと駆動輪の車軸を①・②・③の番号が異なる組合わせで設定しないでください。正常な走行ができなくなり危険です。

注意
警告

・車軸ボルト・ナット類はしっかり締めてください。車輪が脱落し、事故につながるおそれがあります。
・車軸ボルトのワッシャー類・スペーサーは元通りにセットしてください。

スペーサー

バンドブレーキ金具とフレームの車軸ラックの間に挟みこみます。

座面高の変更につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

駐車ブレーキの調節方法（座面高を変更した場合は必ず調節してください）

①駐車ブレーキのブレーキ取付けボルトを緩めます。

②ブレーキがしっかりかかる位置までブレーキ本体をずらします。

③ブレーキ取付けボルトをしっかり締めて固定し、完了です。

注意
警告

使用前には、駐車ブレーキがしっかり効くかどうか、駐車ブレーキがブレーキ取付ボルトとブレーキ取付けプレートでしっかり固定されているかどうか、必ずご確認ください。

注意

ブレーキ取付けプレートを使用しないで駐車ブレーキを取付けようとすると、駐車ブレーキがボルトで破損されますのでご注意ください。

ブレーキの調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

シートベルトの使いかた

●シートベルトつき仕様の車いすに乗車の際は、乗車者は必ずシートベルトを装着してください。

シートベルトの種類ととめかた

①
ベルトについているマジックで合わせてとめます。

②
カンにベルトを通し、折り返してマジックを合わせてとめます。

③
バックル部分を差し込んでとめます。はずす際は、バックルのツメ部をつまんで、ロックをはずしながら引き抜きます。

④
バックル部分を差し込んでとめます。はずす際は、バックル中央の解除ボタンを押して、ロックをはずしながら引き抜きます。

注意
警告

●シートベルトを誤っておしりの下に敷いて長時間座ると、床ずれ等の原因にもなります。十分注意をしてください。
●誤ってシートベルトを装着したまま車いすから降りようとすると、車いすと一緒に転倒する可能性があります。十分注意してください。
●装着時には、ベルトのマジックやバックルが確実に固定されていることを確認してください。

メンテナンス・保管方法

●ボルトの緩み、フレームのガタ、タイヤの空気圧の減少など目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、日常的に行ってください。
●各部のメンテナンス（調節・補修・修理・部品交換等）はお買い上げの販売店にご依頼ください。
●シートが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
●直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けて下さい。

警告

●各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながることがあります。定期的に取扱い業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
●使用者の体調が著しく低下しているときは、充分に注意して使用してください。
●からだに合わない状態での使用はしないでください。
●各部の調整・調節を行うときは、必ず駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
●走行時には地面に凹凸や障害物がないか充分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
●倒れかかるような座り方や、身を乗り出すような座り方はしないでください。バランスをくずして転倒することがあります。
●悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
●エスカレーターの出入り口付近、エレベーター、自動ドア等の付近で使用する際は注意してください。
●踏切りを横断の際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる危険があります。
●手押しハンドルやフレームなどに手荷物等を掛けないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒する恐れがあります。
●フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
●持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。（アームサポートやフットサポート、手押しハンドル、シート等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながる恐れがあります。）
●坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は２輪以上に車止めをしてください。
●本書記載以外の使用はしないでください。
●踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
●子供に操作をさせないでください。
●二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
●フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。（使用を中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。）
●乗車者・介助者とも、車いす使用時には靴をはいてください。はだしで車いすを使用しないでください。思わぬケガのおそれがあります。
●体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。

注意

●周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
●製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落としたり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損することがあります。
●水にぬれた場合、そのままにしておくと製品に錆びやカビが出ることがあります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
●気温の差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないでください。フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えることがあります。
●改造や分解はしないでください。
●当取扱説明書内に記載の寸法や重量の値には、製造の都合上、多少の誤差がありますのでご了承ください。
●製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。

使用前点検（必ず行ってください）

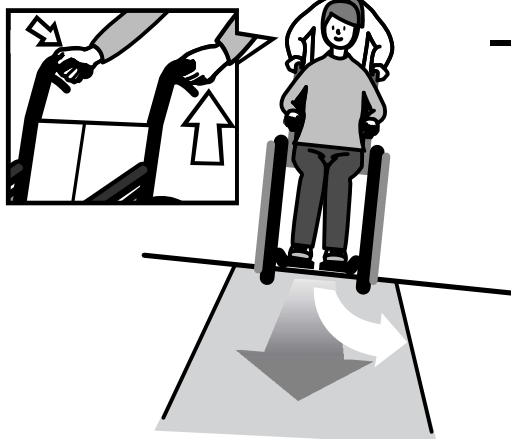
●介助ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
●駐車ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
●介助ブレーキのワイヤーの張り具合が適当かどうか点検し、正常に動作するかどうかご確認ください。
●ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。
●シート類に亀裂や破れがないかご確認ください。
●主輪・駆動輪タイヤの空気圧は適切かどうかご確認ください。（不足している場合は補充してください）
●主輪・駆動輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないか、チューブがパンクしていないかご確認ください。
●車輪のガタ・緩み・曲がり等がないかご確認ください。
●前輪キャスタ輪及びキャスタフォークに変形、亀裂等がないかご確認ください。
●各部パーツの変形、破損がないかご確認ください。
●左右のロックピンカバーが確実に装着されているか、ロックピンカバーの紐が折りたたみフレームに確実に巻きつけられているか、ご確認ください。

※左右のロックピンカバーや紐が確実に装着されていないと、駆動輪（主輪）に巻き込まれる可能性があり、危険です。

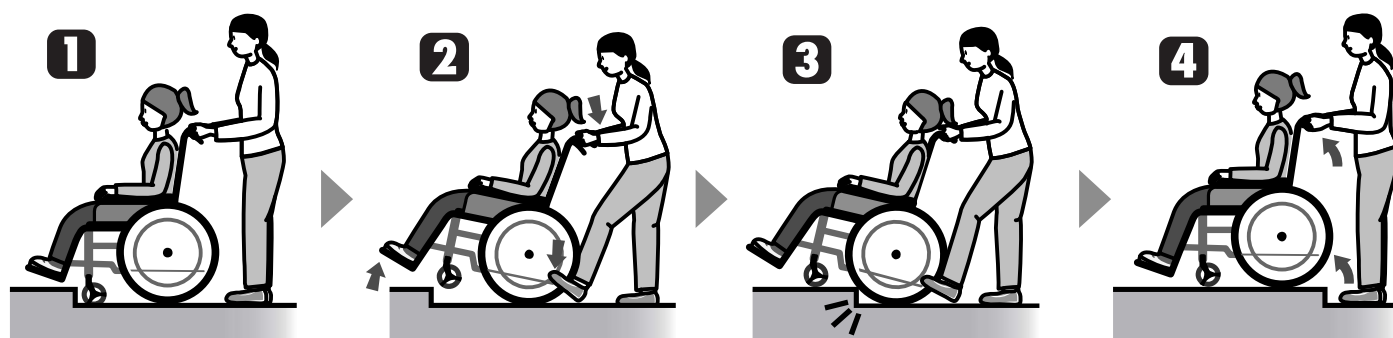
警告　製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調節をご依頼ください。

車いすの使用のポイント

押し方

介助者が車いすのグリップを握り、
進行方向へ押します。
急発進・急停止は、乗車者に不快
感を与えます。
声をかけるなどの配慮をお願いし
ます。

■外での注意（傾いた道での押し方）

傾いている側の手に力を入れて、車いすが
低いほうへ曲がらないようにして押します。
普通の押し方では低いほうに曲がってしま
います。

段　差

1 段差の直前で停車します。

2 グリップを引きながら同時にティッピングレバーを踏み、
キャスタを上げます。

3 段差に駆動輪（主輪）を当てます。

4 グリップを持って車いすを持ち上げ、段差を乗り越えてください。

坂 道

上がるときは前向きで。

下るときは後向きで。

坂道では、前傾の姿勢で前向きで上り、後ろ向きで下るのが基本です。

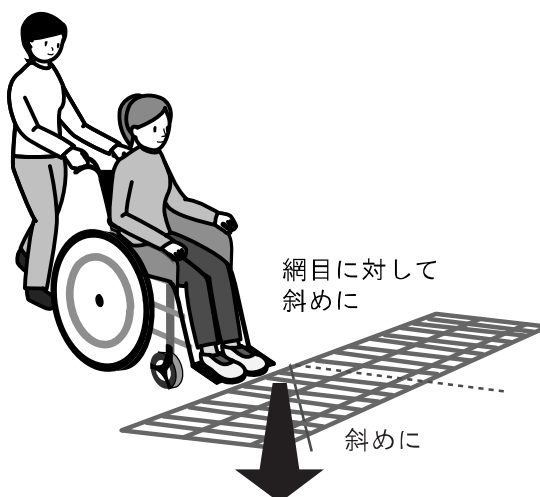
警告

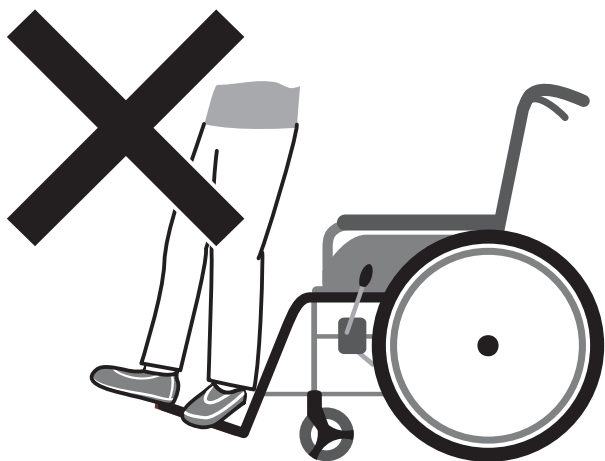
坂道を前向きで下ると、乗車者が前方へ転倒したり、前方へズレたりして大変危険です。

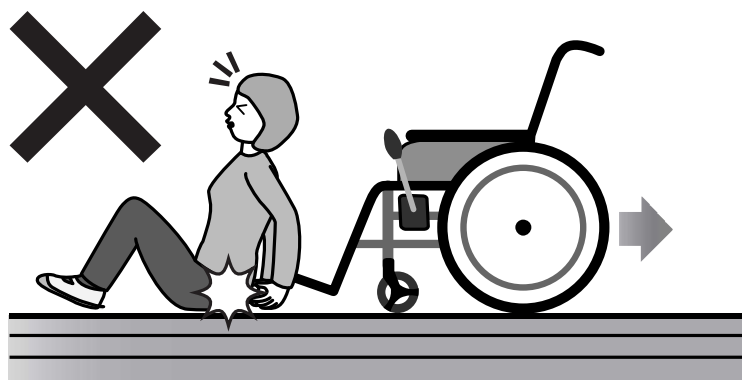
溝や踏切

キャスタや駆動輪の幅・直径よりも広い溝や踏切等を通過する場合は、溝に対して直角に進入してください。直角でない場合、キャスタや駆動輪が溝にはまり、抜けなくなる恐れがあります。
溝の手前でキャスタを持ち上げ、通過する方法もあります。

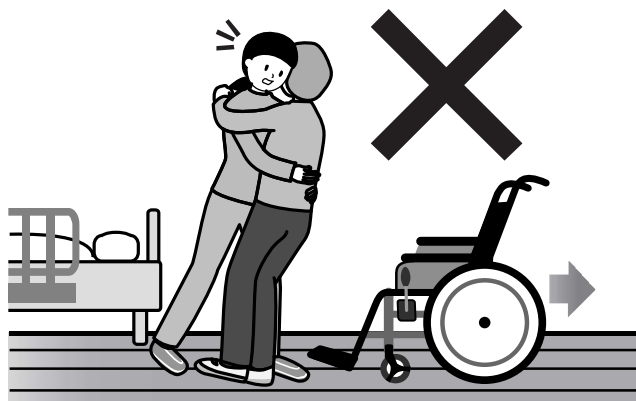
グレーチング

グレーチング（側溝を埋める金網など）を通過する場合は、右図の様にグレーチングに対して斜めに進入してください。

車いすを安全にご使用いただくための注意事項

禁止　フットサポートの上に立たないでください。

車いすのフットサポートの上に立つようなことはしないでください。
製品の破損のおそれだけでなく、転倒による事故の危険があります。

注意
警告　車いすからの乗り降りは、左右の駐車ブレーキを確実にかけておこなってください。

車いすから乗り降りする場合は、左右の駐車ブレーキを確実にかけて、乗降動作をおこなってください。駐車ブレーキがかかっていない状態での乗り降りは、転倒や車いすが思わず動き出してしまうことでの事故の危険があります。

左右の駐車ブレーキを確実にかけて行ってください。

- 車いすからの乗り降り
- 車いすからベッドなどへ、ベッドなどから車いすへの移乗
- 車いすからはなれる

車いすのトラブルシューティング

故障かな？と思ったら、まずは販売店へお問い合わせください。

症　状	原　因	解決方法
斜行する。 まっすぐ走らない。	主輪・駆動輪の空気圧が足りない。(左右の違い) 駐車ブレーキが解除されていない。	主輪・駆動輪の空気を補充してください。 駐車ブレーキを解除してください。
	キャスタ取付けが緩んでいる。 キャスタ輪がスムースに回転しない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
駐車ブレーキが効かない。	主輪・駆動輪の空気圧が足りない。 ブレーキシューが汚れている。	主輪・駆動輪の空気を補充してください。 ブレーキシューの油分を拭きとってください。
	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキががたつく。(本体が動く) ブレーキシューとタイヤが当たっていない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
介助ブレーキが効かない。	主輪・駆動輪の空気圧が足りない。	主輪・駆動輪の空気を補充してください。
	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキのワイヤーの伸び、切れ。 ブレーキシューの磨耗。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
主輪・駆動輪(タイヤ)に空気が入らない。	タイヤ用空気入れの種類が合っていない。	正規のタイヤ空気入れを使用してください。 お買い上げの販売店へご相談ください。
	タイヤチューブのパンク。 タイヤバルブ(虫ゴム)のやぶれ。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
車いすを折りたためない。	フットサポートが干渉している。 積載物などがはさまっている。	正規の状態にして再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 介助ブレーキのワイヤー等のひっかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
車いすをひろげられない。	駆動輪・主輪が縁石などに当たっている。	広い平らな場所で再度お試しください。
	シート・バックサポートのインナーベルトを張りすぎている。	張り調整をしなおして、再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 シートの挟みこみ。 介助ブレーキのワイヤー等のひっかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
異臭がする。	シートやアームサポートの汚れ。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
異音がする。 車いすがぐらつく。	シートの伸び等による干渉。 サビ・磨耗・汚れ等による油切れ 主輪・駆動輪取付けの緩み	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。

ウレタン素材には 寿命 があります。

●クッション性に優れているウレタン素材は、使用頻度にかかわらず経年変化を起こし、割れ、ヒビ、崩れを起こし、破損するおそれがあります。
●特に通気の悪い場所での長期間の保管は避けてください。
●割れやヒビ、崩れ等の症状が発生した場合は使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。

目次

保証規定

Ⅰ．　保証の範囲

1．保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
2．保証期間はお買い上げ後１年間です。
3．但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
　（ａ）取扱い過誤による故障。
　（ｂ）製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含みます。
　（ｃ）天災、地変等による故障ならびに損傷。
　（ｄ）消耗部品、タイヤなど。
　（ｅ）保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
　（ｆ）保証書のご提示がない場合。
4．以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
5．この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

Ⅱ．　サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はお買い上げの販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

Ⅲ．　ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については上面記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りお買い上げ日より「１年間」無償にて修理致します。

機種	
お客さま	
お買　　げ日	年　月　日
保証有効年月日	月　日まで
販売	
総販売元	
製造元	日進医療器株式会社 〒481-8681　愛知県北名古屋市沖村権現３５－２ ＴＥＬ　<0568>21-0635(代)　ＦＡＸ　<0568>23-2787

見本

日進医療器株式会社

本　　社　〒481-8681　愛知県北名古屋市沖村権現３５番地の２
ＴＥＬ＜0568＞21-0635(代)　ＦＡＸ＜0568＞23-2787

東京営業所　〒112-0002　東京都文京区小石川　１－２１－１４
ＴＥＬ＜03＞3814-0923(代)　ＦＡＸ＜03＞3814-4644

大阪営業所　〒533-0013　大阪府大阪市東淀川区豊里　６－１６－１０
ＴＥＬ＜06＞6323-8265(代)　ＦＡＸ＜06＞6326-2554

九州営業所　〒812-0876　福岡県福岡市博多区昭南町2丁目3-8つるまる堂ビル1F
ＴＥＬ＜092＞513-5036(代)　ＦＡＸ＜092＞513-5038

東陽事業部　〒452-0901　愛知県清須市阿原北野１３番地
ＴＥＬ＜052＞401-2741(代)　ＦＡＸ＜052＞401-2751

TRZ-008-02

2010.04.20　第２版　HS-374